



『From7 第65回 歯科医師 歯科衛生士 歯科技工士 コーディネーターMeeting』

日時：平成27年7月1日(水) 19:15-21:00

場所：白鳥歯科インプラントセンター2F 研修室

演題

1. 【多様化する補綴材料と確実な接着の為のセメントチョイス】

スリーエムジャパン株式会社 赤松 健

- 『・多様化する補綴材料
・補綴材料分類と注意点
・補綴材料とセメンティング 』

2. 【前歯部インプラント補綴制作】

歯科技工士 勝亦 晃也 (白鳥歯科インプラントセンター)

『交通事故により前歯部を失い、骨移植、インプラント埋入、歯肉移植など、長期にわたり治療をし、私はプロビジョナルから最終補綴物まで、すべての補綴物の制作を担当しました。その中で、技工士の立場として学んだ事、自分の制作してきた補綴物の発表を通じ、今一度見直し、ケースプレゼンテーションをさせていただきます。』

3. 【インプラント治療の必然性 -多数歯欠損症例についての考察-】

歯科医師 白鳥 清人 (白鳥歯科インプラントセンター)

『チタンインプラントが、故ブローネマルク教授によって、欠損歯列を有する患者に応用されるようになってすでに50年以上が経過し、そして、私自身は、1992年から臨床にインプラント治療を取り入れ、すでに20年以上が経過した。臨床の間では、常に、小宮山先生に習い、ブローネマルク教授の提唱したインテグレートドインプラントの原理原則を厳守しながらインプラント治療を行ってきたつもりであるが、歯科界の中では、様々な材料、治療法などの情報が錯綜し、振り返ると、日々、迷いながら臨床を行ってきたようにも感じる。今回の講演では、多数歯欠損症例におけるインプラントの治療において、その必然性について考察してみたい。まだまだ霧の中ではあるが、その中でも見えてきたこと、わかったこと、そして、治療がどのように変わってきたのかについて話してみたい。近代科学の進化の中、歯科界に於いても、コンビームCTとシュミレーションソフトの進化によりその活用は不可欠なものとなり、ガイドドサージェリー、インプラントフィクスチャー、補綴材料も様々な進化を遂げてきた。多数歯欠損症例のインプラント治療に於いて、様々は長期症例を提示しながら、その結果からわかってきたこと、その必然性について考察し、今どのようにアプローチしているか、そして今後どのように取り組んでいきたいか話してみたい。』